

# 食と農おおいた

No. 122号 2018年12月号  
発行：NPO 法人おおいた有機農業研究会  
〒870-0951 大分市下郡1602-1  
電話：097-567-2613  
FAX：097-567-2614

## みんなの情熱で寒さも吹き飛ばした おおいたオーガニックフェスタ2018

12月9日（日）大分市若草公園で、4回目の「おおいたオーガニックフェスタ2018」が開催され、盛会裏に終了しました。

師走になっても暖かい日が続いていましたが、フェスタ当日は前日からの寒波で非常に寒い日となり客足が心配されました。

しかしながら、出展者やボランティアそして実行委員会をはじめとする関係者の熱い心意気が通じたのか、お客さんの数は昨年と比べやや減少したものの、活気にあふれたオーガニックフェスタを無事終了することができました。

関係者の皆様及び早朝からお手伝い頂いたボランティアの皆様そして消費者の皆様に衷心より感謝申し上げます。



今年のテーマはこれまでのテーマ「種」「土」「根」に続いて「芽」と決め、スローガンは「みんなのめでオーガニックの芽を育てよう」と決めました。

これまでの取り組みの成果を踏まえ、今年是有機・オーガニックが芽吹き、これからすくすくと成長して行くとの願いを込めて実施しました。

ステージ行事では、9時50分、國枝実行委員長の開会あいさつに始まり、大分大学軽音楽部のJAZZスペシャルライブ、土鍋炊き新米試食大会、本根トーク「なぜオーガニックなの?」、オーガニック〇×クイズと続き、浅田理事長の閉会のあいさつで15時に終了しました。



特に、本根トークでは当研究会の諫山検査員の司会で3人のパネラー（コンタファームの井田公一郎さん、イタリア食堂タンバリンの城倉文人さん、消費者代表の堀慎吾さん）が有機・オーガニックについて、自身の濃い思いを交換して頂き

素晴らしい本音トークとなりました。

また、大分大学の軽音楽部の JAZZ のライブも若さあふれる演奏で寒さも吹っ飛ばす熱気に溢れたものでした。寒さで指が痺む中での楽器演奏は大変だったと思われています。本当にありがとうございました。



土鍋炊き新米試食大会の出品を頂いた是恒自然農園の「トヨサト」、地休地足の「ヒノヒカリ」、ウジャマー農場の「アサヒ」それぞれ特徴があり、何れも非常に美味しいとの評価で、30人分があったという間に無くなりました。

そのほか「芽当てクイズ」や「種の交換会」などのワークショップも多くの来場者で賑わい、消費者等との有意義な交流が図られました。

一方、販売コーナーでは、当日が寒かったため、飲食料品はよく売れていたようですが、野菜等の農産物はやや苦戦していたようです。その時の気象やその時期の農産物の出来不出来により消費が左右されることは多々あります。今後より一層、有機農産物の販売、消費拡大に向けた取り組みの必要性を感じさせられました。しかし、そのためのオーガニックフェスタでもあり、来年に向けて頑張りましょう。出店ありがとうございました。

今年はこれまでの「おおいた有機農業研究会」の主催から「おおいた有機農業推進ネットワーク」の主催に変更して実施しました。実行委員の皆様には無報酬で熱心に取り組んで頂き無事大会を終えることができました。ご苦労様でした。

ただ、事務局の不慣れで取り組みが遅れ、関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことが多々あったことをお詫びいたします。今年の総括を充分行って、来年はより素晴らしいフェスタを目指して頑張りたいと思っていますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



終わりにになりましたが、ご後援を頂いた大分県、大分市、大分合同新聞をはじめとする報道機関の皆様、また、ご協力をいただいた NPO 法人アイラブグリーン大分をはじめとする各種団体・機関 の皆様には心からお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

(有光 宏之)



## 第3回おおいたの有機農業者養成講座

11月14日に大分市のわさだ市民行政センター会議室にて「2018年度第3回おおいたの有機農業者養成講座」を開催し、18名が受講しました。

講師は大分県地域農業振興課広域普及指導班の山崎修一さんにおねがいしました。

今回の講座は「有機農業における病虫害防除の考え方」と題して「病気編」と「害虫編」に分けて講義を行っていただきました。

まず、病気編では「皆さんはなぜ風邪を引くのでしょうか？」という質問から入り、風邪を引く要因を作物の病気に置き換えて分かりやすく説明していただきました。また、配布された資料には、病気に罹った作物の写真がいくつか載っていましたが、素人目には病気だとわからないものもありましたが、日頃の栽培管理が重要ということはよくわかりました。

受講者からは「主因、要因、誘因とイメージ、対策、総合防除を学びました。」「湿度(水)の管理と日頃の畑の整理整頓も大切だと思いました。」「人と比較した説明でわかりやすかった。」等々の感想がありました。

次に害虫編では「害虫防除の考え方」として「ほ場に(で)入れない・出さない・残さない」ということが重要で、害虫が発生する原因、どこにひそんでいるかなど、写真を交えて説明していただきました。また、対策として防虫ネットやシートの効果的な使用方法や害虫の天敵となる虫や植物などのお話もとても興味深かったです。また、講師の山崎さんより「有機農業の正しい理解が病虫害も防除する」「一流の有機農業者は、一流の『農業研究者』である」といった言葉で講義を終了しました。



講義を行う山崎修一氏

「受講者からは、天敵の利用が有効かつ有機的だと感じた。」「害虫が住み着きやすい環境を正しく把握することで的確にアプローチしていけると思うので、その辺の知識を増やしていく必要があると感じた。」等々の感想がありました。

どちらの講義も受講者から質問がいくつもあがり、有機農業を目指す方にとって、病虫害対策はとても重要なテーマで、有意義な講座になったと思いました。



次回「第4回おおいた有機農業者養成講座」は年明け2019年1月22日に「有機 JAS がわかる研修会」(講師:森岡雄平氏・深瀬隆治氏)が開催されます。(尾形 和美)

## 竹林研修会

～豊後大野市犬飼町長谷地区“ながたに振興協議会”が  
実践している竹林の保全管理・活用法を研修しました～

12月1日、豊後大野市犬飼町長谷地区で、竹林研修会を実施しました。

この研修会は、国東市安岐町の社会福祉法人共生荘 障がい者サポートセンター三角ベースが現地事務局となっている「荒木川プロジェクト」活動の一環として実施しました。当日は、三角ベースや当研究会の関係者多数が参加しました。

大野川の支流・柴北川が中心部を流れる 豊後大野市犬飼町長谷地区は、“日本の原風景”が感じられる農山村地域で、竹林資源が豊富です。

「ながたに振興協議会」は、それを有効活用した堆肥作り・燃料用竹ペレット作りを実践しています。今回の研修では、その方法を協議会の方にご指導いただきました。

竹林の管理は、まず地区の道路端の生い茂って荒れていた竹林の整備から始めます。

地上1mの部分で竹を切ると約3年で竹は枯れます。その技術を活用して竹林整備を行っているとのことでした。



粉砕機

伐採した竹は、粉砕機で竹チップに粉砕します。それを堆肥と燃料用に加工します。

ながたに振興協議会HPより

粉砕した竹チップは、水分が多いので、乾燥機にかけます。ここで使用している乾燥機は、「もみ殻乾燥機」を改良したもので、送風力を強化したものでした。

堆肥にする場合は、竹チップと鶏糞を混ぜて発酵させ、温度管理しながら切り返しをして、3か月で完熟堆肥にします。完熟堆肥なので、全く臭くありません。それを有料で販売しています。

燃料用竹チップは、粉砕乾燥させた竹チップそのものを、豊後大野市大野町の“道の駅おおの”にある“サイクリングハブ”の足湯の燃料用として販売しています。

竹チップ燃料は、燃やすときに二酸化炭素を排出しますが、その量は竹の成長期に吸収した分と同じなため、結果的には±0となります。

したがって、地球温暖化防止となる取組みということで、この協議会の活動は、大分県表彰を受賞しています。

今、里山の管理に悩んでいる地域が多くあるなか、「ながたに振興協議会」の取組みは、里山を守る私たちの解決策の一助となりました。

(杉浦 洋子)



足湯

皆さんご案内の大分県特産カボス。特に旬のグリーンのカボスは酸と甘みが非常に調和しすばらしい香りで大分県人には無くてはならない食材です。近年は黄色く色づいたカボスも多く出回っていますが、これはこれで十分特徴を発揮しており、使い方を工夫すれば鍋物など冬季の料理には貴重な食材となっています。

このカボスはユズの近縁種であると言われていています。カボスという名前の由来は諸説あるようですが、明らかではありません。かつて臼杵市には300年を超える古木（元祖木と言われていました）がありましたが、今は枯れてありません。私も何回か見に行ったことがありますが、当時樹勢が弱り心配していました。しかし、この元祖木の子孫は接木をされて、残されていると聞いています。また、臼杵市では200年を超える古木もあり、まだまだ大分カボスの名声を維持するために頑張ってくれています。

さて、カボスにはいろいろな品種があることをご存じでしょうか。調査・分類をすればかなりの数になるかもわかりませんが、代表品種は4品種です。



### ①【大分1号】

昭和48年にいろいろなカボスから大分県が選抜した品種です。今日のカボスの代表品種です。樹勢良好、豊産性で優秀なカボスです。種子の多いのがやや難点です。この大分1号は棘の小さいものを選抜したので、果実が大分1号に似ていても棘が大きくて多いものは厳密に言えば大分1号ではありません。

### ②【祖母の香】

昭和49年、豊後大野市緒方町の後藤雅彦さんが自分のカボス園で発見しました。この品種は、枝の一部が突然変異したものです。祖母の香は樹勢がやや弱く、葉もやや小さく枝が下垂しやすく、果実は縦に皺が入ってやや小さいのが特徴です。一目でわかります。また、種子が極めて少なく利用するには非常に使いやすい品種です。



【香美の川・写真のように種子が少ない品種】

### ③【香美の川】

昭和55年に津久見市上青江の佐藤篤文さんが自園のカボスから採穂し、接ぎ木・植栽したもののなかから発見したものです。樹勢等も良く、豊産性ですが、果実はやや小さく早生の系統のようです。この香美の川も種子が極めて少なく非常に使いやすい品種です。

#### ④【 豊のミドリ 】

昭和46年に豊後大野市緒方町の波多野勇さんの庭内に植えられていたカボスの芽状変異した枝が発見されたものです。

この品種の特徴は節間が短く葉色が非常に濃く樹勢はやや弱いようです。果実もまた濃緑色で糖酸とも普通カボスに比べ高いので貯蔵用に適しています。

以上が代表の4品種ですが、私の推奨品種は香美の川です。栽培しやすく、やや早生種ですからお盆ころにはたっぷり果汁も出て、しかも種が無い少ない。是非、庭にでも1本欲しいものです。ちなみに我が家の狭い庭の片隅にも20数年生の祖母の香があります。やや小粒ですが東北の知人にお裾分けして喜ばれています。

なお、種の少ない品種は香り等が薄いという人がいますが、一般の人にはほとんど区別がつかないと思います。もちろん私も区別が付きません。

ご案内のように、カボスには、酢酸及びビタミンCやポリフェノールなどの栄養素が含まれ健康に良いと言われているので、使うときはたっぷりと絞って消費してください。このカボスの良いところは、他の香酸柑橘と比べて酸、香りともあまり自己主張しないことです。いろいろな食材を引き立てる脇役でもあります。これほどバランスのとれたものは無いと私は思っています。ただ、焼酎だけは入れすぎない方がよいようですが・・・・。

最近、「かぼすブリ」や「かぼすヒラメ」などカボスのポリフェノールを利用した飼料で育てられた魚類も出回っています。これも非常に美味です。このブリ、ヒラメもにカボスを数滴垂らして、熱燗で一杯どうでしょうか。

### お知らせ ～今後の行事について～

- |                                                                                                                          |                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①オーガニックフェスタ実行委員会（第7回）<br>・日時：2019年1月9日（水）<br>18：00～<br>・場所：保険医会館                                                         | ⑤九州・山口有機農業の祭典<br>・日時：2019年1月25日（金）<br>～26日（土）<br>・場所：鹿児島県霧島市 霧島国際ホテル                                                         |
| ②有機農業経営モデル検討会（第5回）<br>・日時：2019年1月16日（水）<br>17：30～<br>・場所：保険医会館3階会議室                                                      | ⑥有機農業者養成講座（第5回）<br>現地体験研修会<br>・日時：2019年1月25、26、29、<br>30、2月1、2日の6日間<br>・場所：有機農園茅の里（河野頼通）<br>・研修希望者募集中、<br>申し込みは当研究会までお願いします。 |
| ③有機 JAS 講習会（きのこ）<br>・日時：2019年1月18日（金）<br>9：00～12：00<br>・場所：大分市わさだ市民行政センター<br>2階研修室<br>・講師：鎗水道雄<br>（当研究会判定委員長・検査員）        | ⑦有機 JAS 講習会（農産物、加工品、小分け）<br>・2月中旬実施予定                                                                                        |
| ④有機農業者養成講座（第4回）<br>・日時：2019年1月22日（火）<br>13：00～16：00<br>・場所：大分市わさだ市民行政センター<br>2階研修室<br>・講師：森岡雄平（当研究会検査員）<br>深瀬隆治（当研究会検査員） |                                                                                                                              |

## 年末年始の業務日程について

常日頃より当会の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

おおいた有機農業研究会の事務局は2018年12月29日（土）から2019年1月6日（日）まで年末年始の休業とさせていただきます。その間、関係者の皆様には何かとご不便をおかけすることと思われませんが、ご了承願います。

なお、年明けは2019年1月7日（月）9：00から通常通りの業務となります。どうぞよろしく願いいたします。

## 編集後記

今年も余すところ僅かになりました。今年も気象災害や社会、政治、経済など非常に心痛む出来事や心配されることが多かったように思われます。

このような中で、有機農業を取り巻く環境はどうでしょうか。国においては2020年のオリンピックを目指して一時しのぎ(?)の有機やGAPの推進をしているよう思われてなりません。

日本の伝統や気象、土地、水、生き物等の自然環境と日本人の本質を見極め、そこにスタンスを置いて、戸々個人の有機の生産者を育て、拡大するという地に足の着いた確固たる施策をお願いしたいものです。

当研究会も1人でも多くの有機農業の生産者を確保し、有機の輪を広げたいと思い、オーガニックフェスタや有機農業者養成講座、有機農業経営モデル策定等を皆様のご協力を頂き取り組んで参りました。

しかしながら、今年は事務局員が総入れ替えの状況になり、事業者をはじめとする関係者の皆様にはいろいろご迷惑をおかけしたことと思われませんが、来年は一步、二歩着実に前進するように頑張る所存です。(来年の干支である猪のように猪突猛進とは行きませんが……。)

一層のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、皆様良いお年をお迎えください。(事務局一同)

— おおいた有機農業研究会 スタッフ —

事務局長 有光 宏之      事務局員 尾形和美・末光清美・杉浦洋子

有機肥料のことなら何でもご相談ください。  
土壌検査・施肥設計も致します。  
(有)江島  
大分県中津市山国町中摩  
電話 0979-62-3178  
FAX 0979-62-2927

食と農おおいた 2018年10月22日121号  
発行：NPO法人 おおいた有機農業研究会  
TEL：097-567-2613 FAX：097-567-2614  
E-mail：oitayuken@po.d-b.ne.jp